

第 13 回生物小委員会における委員意見及び対応（案）

No.	小委資料	委員意見	対応（案）
1	資料 4-1 (貧酸素水塊)	(樽谷委員長) 赤潮については、3章で発生機構まで記載している。貧酸素水塊についても、その記載を検討してはどうか。	ご意見を踏まえ、記載を修正した。
2	資料 6-3 (A3 海域)	(古賀委員) タイラギの 要因の考察部分が P.1~P.12 と長いので、見出しをつけた方が見やすくなるのではないか。	ご指摘を踏まえ、記載を修正した。
3	資料 6-2 (A2 海域)	(伊藤委員) P.5 グリコーゲン含量減少の(川原ら 2004)は、2004 年の立ち枯れへい死について、へい死の発生地点と発生していない地点を比較したもので、グリコーゲン含量減少に差がなかったため、記述の修正をお願いします。	ご指摘を踏まえ、記載を修正した。
4	資料 6 全体	(滝川委員) タイトルが「原因・要因の考察」(A 1 海域~ A 4 海域、有明海全体)と「原因・要因の整理」(A 5 海域~ A 7 海域)と異なっているが変えている意味はあるのか。	資料 6 - 5 から資料 6 - 7 についても「原因・要因の考察」とすべきところ。ご指摘を踏まえ、修正した。
5	資料 6-1 以降	(柳村委員) 橘湾が抜けている。5章の「再生への取り組み」も含め橘湾も入れて欲しい。資料 7 (八代海)にも記載があるように赤潮が発生するので、どこかに取り込んでいただきたい。	ご指摘を踏まえ、資料 6 - 8 の有明海での夏期の赤潮発生に追記するとともに、資料 8 「再生への取り組み(たたき台)」に記載した。
6	資料 7-1 (Y2 海域)	(平山委員) 「梅雨時期の大雨によるアサリの大量へい死」が見られたのは 2008 年ではなく、2011 年である。	ご指摘を踏まえ、記載を修正した。

No.	小委資料	委員意見	対応（案）
7	資料 7-1 (Y2 海域)	(平山委員) ナルトビエイの駆除について、平成 18 年からの駆除量等のデータがあるので、このデータも掲載願いたい。	対応を検討する。
8	資料 7-2 (八代海全体)	(佐々木委員) P.11、2009 年の赤潮発生パターンについて、前回の指摘で 型から 型に修正いただいたが、(折田ら 2013)の論文では 7 月 27 日時点までは 型となっている。「発生初期は 型であった(折田ら 2013)が、その後 型となった。」と修正提案する。	ご指摘を踏まえ、記載を修正した。
9	資料 8-2 (カキ礁)	(山本委員) P.12、A 3、A 6 海域で貧酸素が改善されているが、ここだけが顕著に改善したとまではいえない。この文章表現では誤解を招くおそれがある。	ご指摘を踏まえ、今回の資料を作成した。
10	資料 8-3 (浮遊幼生)	(古賀委員) 広域的な母貝団地は必要である。報告書の書きぶりとして、いろいろな仮説をたてシミュレーションしたらこのような結果になったと、書きぶりに留意して欲しい。「2008 年の大量着底は有明海南部の母貝集団だけが供給源」だと誤ってとらえられないように注意してほしい。	ご指摘を踏まえ、今回の資料を作成した。引き続き、様々な場所から粒子を放出した結果を示し、定量的に判断できる素材を提供したい。
11	資料 8 (全体)	(滝川委員) 貧酸素や赤潮について連関図でも様々な原因・要因が示されているが、貧酸素水塊の対策について、カキ礁や赤潮発生の予察などを決め打ち的に記載されている印象を受ける。アウトプットとしてどのような再生事業に結びつけていくのかという視点で、再生の取り組みの方向性を説明する必要がある。	あくまでケーススタディとして、二枚貝の効果に注目してカキ礁を取り上げたものであり、ここに掲載されていないものは再生に結びつかないということではない。ご指摘を踏まえて、今回の資料を作成した。